



phoenix
フェニックス

2022
July

7月号

NO. 576

2022(令和4)年7月9日(毎月第2土曜日発行)
1974(昭和49)年1月創刊

(発行所)

ENEOS株式会社

堺製油所フェニックス編集室

〒592-8550堺市西区築港浜寺町1番地
電話:堺072(269)2011

WEBでもフェニックスをご覧ください
<https://www.phoenix-sakai.com/>

知っていますか?
堺の伝統産業

河内で採れた木綿が
和泉で布に織られて

堺で晒(さらし)に
なった!

堺市は古くから晒の産地で、晒からつくった手ぬぐいや浴衣の生産が今でも盛んに行われています。晒について、株式会社角野晒染の代表取締役社長 角野孝二さん、工場長 古谷泰佑さん、広報・河口友美さんにお聞きしました。



石津川の急流が役立った

晒とは織り上がったばかりの布「きばた(生機)」を白くする加工、または加工した布そのものを指します。堺で晒が始まったのは400年ぐらい前といわれます。

かつて河内(大阪府の東部)では、良質の木綿である「河内木綿」が栽培されました。それを糸にして布を織るため、和泉(市)には多くの織り屋さんがありました。

綿の糸は、織り機にかけても切れないようにのり付けをしています。また、布を織る織機の汚れなどがついてしまうので、綿布が織り上がった時は黄色い感じ(生成り)になります。

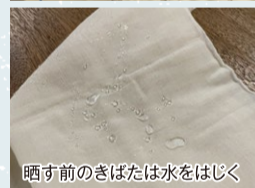
このままだと水をはじき、染め加工ができません。そこで晒の出番です。

石津川は急流で、きばたを洗うにはもってこいの環境でした。石津川沿いの津久野や中区毛穴町には

column

厚みの違いは?

綿布の厚みの違いは「糸の太さ(番手)」と「織った糸の本数(打ち込み)」の違いです。手ぬぐいは「20番手」、浴衣なら「40番手」を使います。数値が大きくなるほど、糸も太くなります。



晒す前のきばたは水をはじく

かつては7、8軒もの晒屋さんがありました。

晒はその後、大阪市内の染屋さん(染色工場)に運ばれ染物になり、全国に出荷されていきましたが、震災で染屋さんが堺や柏原に移転してきました。そのため、堺でも「染め」が身近になり、手ぬぐいや浴衣の生産へと発展したのです。

1日半かけて晒す

工場内の大きな釜には、1度に4800反、約5万枚の手ぬぐいに相当する量のきばたが入ります。この釜に薬品を入れて、のりや汚れをとる作業を繰り返します。キレイになったら、遠心分離機にかけて脱水し、乾燥させます。1工程は1日半(35時間)かかり、これを週に2〜3回行います。



晒を染める

当社では、晒の染めも行っています。染めの1つの技法が「ロール捺染技法」です。専用の機械で、生

column

手ぬぐいの両端はわざと「切りっぱなし」手ぬぐいの両端は、破いて使いやすいように、わざと切りっぱなしになっています。昔は鼻緒が切れた時の応急処置や包帯代わりとして使われました。

堺の伝統産業である晒と染めを身近に! 体験教室 雪花絞り染

雪花絞りとは、生地を三角に折りたたみ、三角形の角

(または底辺)を染料に浸ける染め方です。

染め終えた生地を広げると、雪の結晶のような花模様が出てきます。

世界に一つだけの花♪の手ぬぐいをつくってみよう!

1 晒を4つ折りにして、端からジャバラ状に三角形にたたみます。折り目のところにアイロンをかけます。(サイズは37×90cm)



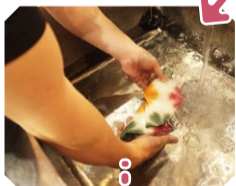
2 たたみ終わったら、型にはさみます。



3 三角形の角に、染料を付けていきます。染料は6色あり、季節によって色合いを変えています。バランスよく染料に浸すのがおすすめですが、わざと1つだけ大きく浸すと、また変わった感じの模様が楽しめます。



4 水で洗います。染料は、空気や水に含まれる酸素によって発色します。



5 脱水機にかけて、アイロンをかけるとできあがり!



完成!



●体験料 / 1,650円 ●所要時間 / 1時間程度

お申込は電話・サイトからどうぞ

☎072-262-0425
<http://kadono-taikenkobo.jp/>
10名以上はご相談を。



※体験教室はストール、浴衣もあります。

※工場見学は平日「雪花絞り染め体験」をした方のみ可。見学料はお一人1,100円。

音訳と点訳で「ひさご」(ひょうたん)

ひさご会は、1981(昭和56)年、高石市社会福祉協議会(社協)が開催した「第1回朗読ボランティア養成講座」の修了生によって組織化されました。

当初は、点訳と一緒にグループだったので、「音訳」と「点訳」の2つが繋がった形が「ひさご(ひょうたん)のようだ」と、当時の社協の会長により名付けられたといひます。(※現在は、点訳グループとは独立して活動しています。)

月に3~4回、12名の会員が「ふれあいゾーン複合センター」の小会議室に集まって、打合せ、読み合わせ、勉強会などを行っています。

定例会



音訳で充実した毎日

1枚の音訳CDをつくりあげるのに、内容も技術の面でも少しでもよいものにと、ひさご会では、会員みんなで日々、勉強を重ねています。

「自主制作する『声のたより』のネタになる記事を探すために、新聞をよく読むようになった」「夫に発音のチェックをしてもらうので、夫婦の会話が増えた」など、音訳ボランティアをすることで、生活により変化が生まれたと語る会員もおられます。

また、「専門書の依頼があった時は、グラフや数値を説明するために、知識をお持ちの方に教えていただきながら取り組んだ」「高石を離れてからも、音訳の活動をしている」というOBの方もいらっしゃいます。

現在、会員を募集中です。「やりたいという気持ちがあれば、徐々に上達していきますので大丈夫!男性、初心者大歓迎!お気軽にお越しください。」

「ひさご会」見学ご希望の方は 社会福祉協議会ボランティアセンター ☎072-265-7600 までお電話を (CDご希望の方も、上記までご連絡ください)

column

音訳と朗読の違いは?

朗読は「感情を込めた自己表現」。それに対し音訳は、「文字を音声に変える」という作業をするので、表や写真もていねいに説明していきます。

活字を音声に変えて届ける 音訳ボランティアグループ「ひさご会」

文字や図などの情報を音声にすることを「音訳」といいます。高石市の音訳ボランティアグループ「ひさご会」は、市内の視覚障がい者の方のために、40年以上も本や新聞、広報などを音訳する活動を続けています。

CDに書き込み視覚障がい者に送る

ひさご会の活動は、以下のようになっています。

- 1 「広報たかいし」音訳(毎月)
- 2 議会だより 音訳(年5回)
- 3 自主制作「ひさご会 声のたより」作成(毎月) 会員たちが新聞や雑誌などから集めた記事を音訳し60分以内にまとめます。
- 4 図書館で対面朗読
- 5 個人の依頼図書音訳(要望に応じて)

その他、スマートフォンなどの取り扱い説明書の音訳もしています。

1~3は、パソコンで録音、編集してCDに書き込み、盲人用郵袋(ゆうたい)に入れて、高石市内の視覚障がい者の方に送ります。CDは市役所や図書館にも置かれ、自由に聞くことができます。

これ知ってた?

高石市内で午後5時に流れる「おうちに帰しましょう」のアナウンスは、ひさご会の1997年当時のメンバーによる録音です。



録音室

column

配達無料の「盲人用郵袋(ゆうたい)」

視覚障がい者の方に郵送する時は、盲人用郵袋という袋を使います。宛名カードの裏側には「ふれあいゾーン複合センター」の住所が書かれており、視覚障がい者の方は聞き終わったら、宛名カードを裏返して返却します。日本郵便が無料で届けてくれる便利な制度ですが、使えるのは障がい者の方だけで、高齢で目が見えにくくなったという方から「音訳CDがほしい」との依頼がある時は、会員がご自宅まで届けています。

送る時

返ってくる時

音訳ボランティア養成講習会

受講者募集

講師 久保田 文氏(社団福祉法人日本ライトハウス製作部)

日程 第1回 9月16日(金)13:30~15:30
ボランティアの心得 音訳ボランティアとは
第2回 9月30日(金)13:30~15:30
体験してみよう 発音・発声・読んでみよう

会場 高石市立ふれあいゾーン複合センター 小会議室

対象者 音訳ボランティアに興味のある方

受講料 無料

定員 15名(先着順)

申込先 高石市社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター ☎072-265-7600 8月31日(水)まで

地元の寺社を訪ね歩こう

泉大津市の

助松神社



所在地 泉大津市助松町1-3-19
Tel.0725-22-4706
アクセス 南海本線「北助松駅」下車 徒歩2分

第16回

南海本線の北助松駅前にある神社で、地域の氏神さまとして親しまれています。祭神は「春日大神」「菅原道真公」で、創建は約千二百年前(奈良時代)、寛喜年間には菅原道真公を合祀、吉野朝(南北朝)時代の合戦でこの神社の加護を得た武将の子孫が後に神殿を建造したといわれています。

こじんまりした境内には、金比羅・八幡・戎社の境内社や大阪府下で最古といわれる「百度石」などが見られ、この神社の特徴で神鶏でもある天然記念物のニワトリ「東天紅鶏」と「小国鶏」が放し飼いされています。人に慣れているようで、近づいても逃げようとせず、運が良ければ、「鳴声余韻ありて天下一なり故に長鳴の称あり」と言われる東天紅鶏の鳴き声が聞けるかもしれません。



※先月の第15回「地元の寺社を訪ね歩こう」に掲載の駕馬八幡神社の正しい読み方は「つくのちまじんじや」でした。訂正してお詫言申し上げます。

今月のクイズ

問題 目の不自由な方のために配達無料になる袋「盲人用〇〇」の〇〇とは?

- A 郵袋
- B 郵バッグ
- C 郵箱

18名様

せんとパッキンをひとつにした「シームレスせん」!



今月のプレゼント

象印
ステンレスマグ(480ml)
パールホワイト

- サイズ: 現品約6.5×6.5×21.5cm
- 重量: 約230g
- 口径: 約40mm

6月号の答え: C 高石市

◆応募方法

- ①クイズの答え ②住所 ③氏名 ④電話番号
- ⑤今号で良かった記事 ⑥入手方法(A:新聞折込 B:ポスティング C:WEB D:その他) ⑦ご意見ご感想(任意)をご記入のうえ 1.ハガキ 2.WEB のいずれかで、ご応募ください。

◆応募締切 7月18日(月・祝)

郵送の場合は当日消印有効。WEBの場合は当日23時59分59秒まで

◆郵送先

〒592-8550 ENEOS(株)堺製油所クイズ係

◆URL

https://www.phoenix-sakai.com/quiz/

※応募者の氏名等個人情報、当選者の抽選または賞品発送等に関するのみ使用いたします。また、個人情報の管理は、法令に従って実施しております。 ※ご応募はお一人様一回限り、景品の発送をもって当選者の発表にかえさせていただきます。

ENEOS(株)堺製油所

部門紹介

環境安全部門



紹介者: 瀧本英玖 2009年入社

環境安全部門ではその名の通り、地域の環境と製油所の安全を守るための業務を日々行っています。

今回の記事では、堺製油所の防災と環境に関する取り組みを紹介いたします。まず、防災に関しては、従業員および協力会社員による自衛防災隊を組織して、定期的な防災訓練を重ねることで充実を図っています。近隣のコンビニート各社と大阪・和歌山広域共同防災協議会を組織して、当所の構内に大容量泡放射システムを配備することで、当所のみならず、協議会加盟各社で原油タンクなどの大型タンク火災が発生した場合には、すぐに消火活動を行える体制を整えています。

また、大規模地震対策の一つとして、地下水のくみ上げを定期的に行うことで、地震発生時の地盤液状化によるタンク施設の損傷防止を図っています。

有事の際には24時間以内に製品供給の再開が出来る設備を整えており、定期的に訓練も行い地域社会の復興に貢献しています。

環境への配慮として、石油精製に使用した水は排水処理設備を通り、法令に基づいた高い基準により水質を管理し、油分や汚れを取り除いたきれいな状態で海に放流しています。

大気汚染への対策では、汚染の原因となる硫黄酸化物・窒素酸化物を各種装置で除去した上で大気に放出しており、排気データはリアルタイムに関係官庁へ送られ24時間監視が行われています。

油が海へ流出するのを防ぐため、大型タンカーの荷役時にはオイルフェンスを張り、万一に備えて周囲に消防艇を配備しています。

今後とも安全や環境への配慮を第一として操業してまいります。



大容量泡放射システム実放水訓練



堺製油所の夜景